

(様式8)

## 公共事業終了箇所評価調査

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19 - 建 - 終 - 15		区 分	国庫補助 県単独	
事業名	火山砂防事業		部 局 課 室 名	建設交通部 河川砂防課	
事業種別	砂防えん堤工、床固工、渓流保全工		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 2532	
路線名等	寒沢川		担 当 課 長 名	河川砂防課長 萩野 敏明	
箇所名	にかほ市院内		担 当 者 名	主幹(兼)班長 荒木 洋	
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実	
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率	

## 1. 事業の概要

事業の背景及び目的	当渓流は、にかほ市院内に位置する土石流危険渓流である。流域内は溪岸侵食や山腹崩壊・倒木により荒廃し、また河床には最大2m程度の巨石が不安定に堆積しているため、豪雨や融雪等により土石流が発生する危険性が高い。土石流が発生した場合、下流の人家82戸や市道、さらには災害時要援護者関連施設(診療所)に被害が及ぶ恐れがある。このことから、砂防施設整備をもって土砂災害を未然に防止し、住民の生命・財産を保全したものである。					
	事業期間	前回 H8年 ~ H17年 終了 H8年 ~ H17年	総事業費	前回 2,180,000千円 終了 2,180,000千円	国庫補助率 5.5/10	
事業規模	前回 砂防堰堤 4基、渓流保全工 L=645m、遊砂地 2箇所					
	終了 砂防堰堤 4基、渓流保全工 L=645m、遊砂地 2箇所					
事業効果の要因変化及び発現状況	前回評価計画		最終	増減 -	理由	
	事業費		2,180,000	2,180,000	0	
	経内費	工事	1,517,000	1,521,500	4,500	取付護岸工の増による
		用補	458,000	449,500	-8,500	用地面積および補償橋梁工請負額の確定による
		その他	205,000	209,000	4,000	建物事後調査の増による
	事業内容		砂防堰堤 4基 渓流保全工 L=645m 床固工 5基 遊砂地 2箇所	砂防堰堤 4基 渓流保全工 L=645m 床固工 5基 遊砂地 2箇所		
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)			
	最終コスト 終了C / 前回評価C = (1.00)		【便益】 保全区域内の資産に変化がないことから、前回評価時と同額。			
	費用便益 前回評価B / C = 2.79		【費用】 H15評価時よりH17完成時まで変更はありません。			
	終了B / C = 2.79					
目標達成率	指標名	土砂災害危険箇所整備率				
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)	
	目標値a		24.2%	データ等の出典	県河川砂防課	
	実績値b		22.3%			
	達成率b/a		92.1%	把握の時期	19年 3月	
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む					
自然環境の変化	魚道の設置や、土砂の移動を寸断しない透過型えん堤、玉石を表面に配置した構造物などの採用により、従来の工法よりも環境への負荷を押さえながら地域の安全性を確保できている。しかし、魚影が減少したようだという声も聞かれている。					
社会経済情勢の変化	平成18年7月に発生した長野県岡谷市の土石流災害(死者7名)にあるように、発生する被害が大きくなる傾向にあり、ハードだけではなく必要に応じてソフトと一体になった砂防施設整備が急務となっている。					
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	河川管理者として県が維持管理を行っているが維持管理上の課題として、中小洪水による土砂流出に伴い発生する洲と、繁茂する雑草・雑木類の除去が挙げられる。当該地内は地元住民らによって年2回の除草作業が行われていることから、県として地元住民と協同した効率的な除石・除草・伐木等が必要と考えられる。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 <u>受益者</u> 一般県民 (時期: 19年 9月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 安全性の向上に対する満足度が高く、住民の約9割が安全性の向上を感じている。また、実施後における周辺環境・景観に関しても、8～9割の住民から肯定的な回答を得ている。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画の中で、災害に強い県土づくりと危機管理体制を実現させるための施策に砂防施設の整備が位置づけられている。
関連プロジェクト等	特になし
前回評価結果等	(選定または継続) 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項 なし 指摘事項への対応

## 2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 (A) 2点 B(1点) C(0点) 安全性の向上に対する満足度が高く、住民の約9割が安全性の向上を感じている。また、実施後における周辺環境・景観に関しても、8～9割の住民から肯定的な回答を得	(A) 4点
	事業の効果 (A) 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 (2点) (1点) (0点) 事業の完了により、計画された流量の疎通能力が確保された。	B(1～3点) C(0点)
効率性	事業の経済性の妥当性 (A) B C 費用便益費は1.0を上回っており、妥当であるといえる。	(A) 2点
	コスト縮減の状況(B/Cの算出が出来ない場合のみ評価する。) A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし 透過型えん堤の導入によりえん堤規模を抑え、また再生骨材を使用するなど、コスト縮減に努めている。	B(1点) C(0点)
総合評価	(A) (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 事業の効果は発現しており、事業の妥当性は高いといえる。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業実施前の設計及び調査段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減についても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

## 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

事業区分：砂防事業 補助事業

施策区分：災害に強い県土づくり

<b>事業名</b>	火山砂防事業(にかほ市 <small>さむさわがわ</small> 寒沢川) 【H19終了評価】
<b>事業概要</b>	<p>当溪流は、にかほ市院内に位置する土石流危険溪流である。流域内は溪岸侵食や山腹崩壊・倒木により荒廃し、また河床には最大 2m 程度の巨石が不安定に堆積しているため、豪雨や融雪等により土石流が発生する危険性が高い。土石流が発生した場合、下流の人家82戸や市道、さらには災害時要援護者関連施設(診療所)に被害が及ぶ恐れがある。このことから、砂防施設整備をもって土砂災害を未然に防止し、住民の生命・財産を保全したものである。</p> <p>【事業内容】全体事業費：2,180百万円          工期：平成 8年度～平成 17年度          工種：砂防えん堤 4基、遊砂地 2箇所(床固工 9基)          溪流保全工 L=645.0m</p>
<p style="text-align: center;">〔 寒沢川流域の災害弱者関連施設・人家82戸・生活基盤道路を土石流災害から保全し、安全で安心できる地域を創出します。 〕</p>	

災害時要援護者施設(診療所)



火山砂防  
寒沢川  
にかほ市

蛇行した流水による溪岸侵食 不安定土砂の発生  
2m大の巨石・転石 土石流の破壊力増大



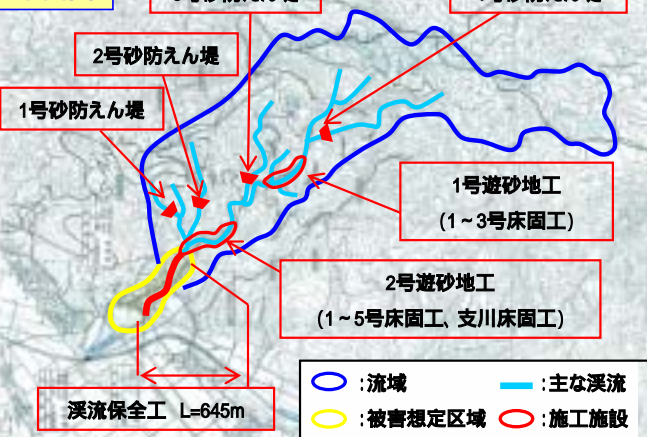
流域概要



3号えん堤(鋼製スリット) 平時は下流への土砂供給を可能としつつ、土石流時は転石等で閉塞して被害を抑える。



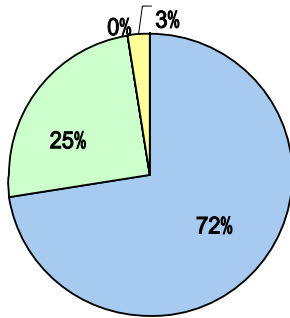
平面図



保全家と溪流保全工 蛇行した流向を整え 溪岸の侵食を抑えらるとともに、土石流を安全に流下させる。



Q1: [治水] 寒沢川砂防修事業により、災害に対する安全性は向上したと感  
じますか？

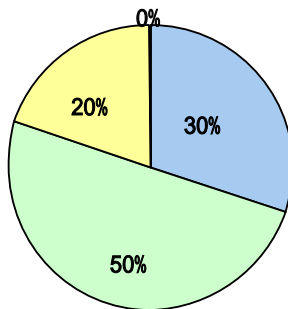


問 1. 寒沢川の砂防事業により、氾濫や土砂流出などの災害に対する安全性は向上したと感  
じますか。

- 1. 安全性が向上し安心してくらすことができる。
- 2. どちらかというと安全性が向上したと感じる。
- 3. ほとんどかわらない。
- 4. その他

図 1. 問 1 の回答

Q2: [環境] 事業は、自然環境に配慮していると感じますか？

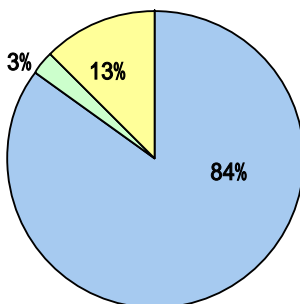


問 2. 寒沢川の砂防事業では、落差部に魚道を設けるなど自然環境にも配慮しておりますが、十分に配慮して  
いると感じますか。

- 1. 十分に自然環境に配慮している。
- 2. どちらかという自然環境に配慮していると感じる。
- 3. もっと自然環境に配慮した方がよい。
- 4. その他

図 2. 問 2 の回答

Q3: [景観] 事業の実施により風景や眺めが変わったと感じますか？



問 3. 事業の実施により、風景や眺めが変わったと感じますか。

- 1. 風景や眺めが良くなった。
- 2. 変わらない。
- 3. 風景や眺めが悪くなった。

図 3. 問 3 の回答